

## 環境活動で2例目の協定

# 加和太建設が参画

19日、静岡県の「ふじのくに」生物多様性地域戦略推進パートナーシップ」制度に基づく、2例目の協定が結ばれた。写真。加和太建設（河田亮一社長）が参画し、竹林の伐採や植林を通じて環境保全活動を推進する。



ふじのくに生物多様性地域戦略推進パートナーシップ制度は、環境保全団体と環境意識の高い企業を県がマッチングするもの。県は、環境保全団体と企業が連携して取り組んだ活動をホームページなどで情報発信する。2023年8月に制度が創設され、同10月には須山建設（須山雄造社長）などが初の協定を締結した。2例目となる今回の協定は、特定非営利活動法人グラウンドワーク三島（小松幸子理事長）と加和太建設、県の3社で締結。沼津市や三島市を活動場

所として、竹林の伐採や植林、清掃活動に取り組む。協定期間は19日～25年3月31日で、以後1年ごとに期間が更新される。

協定式で小松理事長は「加和太建設の皆さまと協力して、より良い地域づくりに取り組みたい」と話した。これを受けて河田社長は、グラウンドワーク三島が取り組む活動の理念に「強く共感している」とし、「資機材の提供や安全面のサポートなど、われわれの会社だからこそ協力できる」と意気込みを語った。